

# こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.28



## 第17回 差別をなくす仏の里の集い



▲熱く語りかける講師の川口泰司さん

8月18日(月)、アストくにさきアストホールで、「第17回差別をなくす仏の里の集い」が姫島村との合同で開催されました。この「集い」は、毎年旧東国東郡四町一村で実施しており、本年度は山口県人権啓発センター事務局長の川口泰司(かわぐちやすし)さんを招いての講演が行われました。川口さんはまだ29歳と若いのですが、全国各地で精力的に講演をしています。大分県にも何度か来ているとのことでしたが、国東市での講演は初めてのことでした。

演題は「差別って一体何や

ねん?」若者からのメッセージ「ジ」を題し、冒頭に自分達の世代(同和教育を受けてきた世代)と親の世代、更には祖母達の世代では、当事者にとっても、周囲の人にとっても被差別意識、差別意識には違いがある。という話から、愛媛県の宇和島市で生まれ、小学生の時に自身が部落出身者ということを知ったこと。しかしそのときはその意味さえない分、学校で先生に教えて貰ってもピンと来なかったことや、中学生となり「解放子ども会」での体験や立場の自覚、高校での精力的な活動から一転して、大学進学後サークル活動(解放研究会)では活躍しながらも、アルバイト先などでは周囲の環境の変化から、自分が「部落出身者」と言えなくなってしまうこと。「部落出身者」であることを明らかにした後、交際していた異性の親や祖父に交際自体を反対され、交際相手自身が、本当は大好きな親や祖父と言い

争わなければならなくなってしまうつらい体験から、差別は自分の大切な人にもつらく、きつい思いをさせること。そして大学を卒業して社会人となり、一貫して部落解放の仕事に携わり、結婚を契機に山口県で現在の仕事に就いてのことなどを、時にユーモアを交えながら楽しく話して頂き、あつという間に講演時間が過ぎてしまいました。

とくに、差別はする側に100%責任がある。される側にも問題があるという人がいるが、議論すべきステージが違うこと。川口さん自身が現在、数多く関わっている「いじめ」の問題で言われやすいことと同様に間違いであることなどを紹介しながら、熱く語っていたいただきました。

今後、何処かで川口さんの講演会を見かけたら、ぜひのぞいて見てください。きっと楽しく、ためになる話が聞けるでしょう。

(人権・同和対策課)

## 人権ストーリー・コンテスト2008

### テーマ

「身近なことから考える人権」

### 応募規定等

- (1) 一般部門 4千~1万2千字
  - (2) ジュニア部門 800~1万字  
(平成21年3月31日時点で18歳未満)
- ・応募用紙は(財)人権教育啓発推進センターのホームページからダウンロードできます。  
URL <http://www.jinken.or.jp>

・自作、未投稿、未発表、日本語で作成のもの(入賞作品の著作権、映像化権は(財)人権教育啓発推進センターに帰属します。また応募作品は返却しません。)

### 締切

11月14日(金) 必着

### 応募先・問い合わせ

(財)人権教育啓発推進センター

☎ 03-5777-1917